



ほうゆう病院院長に就任して

ほうゆう病院 院長 小阪 憲司

藤澤前病院長（名誉院長）の熱烈なラブコールを受け、7月1日からほうゆう病院院長に就任しました。

ほうゆう病院を開院するという事で、横浜市大の教授の当時、池島事務局長、相澤事務長、藤澤院長が挨拶にみえ、サポートのお約束を覚えています。それから6年が経ち、認知症専門のほうゆう病院は着々と基礎を積み上げ、藤澤先生を始め、みなさんの協力のお陰で立派な病院に発展し、引き継ぐことになりました。現役から引退して自由な身で好きなことをしながら、好きな臨床活動をのんびりとすることにしていたので、最初はあまり乗り気ではありませんでした。神経病理学の先輩で私の30年来の親しい知人である藤澤先生からの熱心な働きかけでお引き受けいただきました。引き受けるからにはさらに良い病院にしたい。着任早々、院長所信表明の際に「この病院はどうあるべきか」というテーマでお話ししたが、思いつくままに十項目を挙げたので、それを紹介して私のご挨拶に代えたいと思います。

ほうゆう病院は「認知症専門の精神科病院である」という特徴を全面に出し、「特徴のある日本一の認知症専門の精神科病院にする」という大きな目標を掲げました。

- 1) ホームページの充実：「認知症専門病院」をアピールし、ここにほうゆう病院ありということを全国に知らせる。ほうゆう病院という病院は、他にもいくつかあるので「横浜ほうゆう病院」という病院名にしたい。
- 2) 外来診療の充実：まず「物忘れ外来」をホームページでも宣伝する。また外来診察室の改造が必要であり臨床心理士を非常勤で置く。臨床治験を行なえるシステムを作る。さらに、あしたばメンタルクリニックと

の連携を密に、機能分担し、クリニック間との患者の搬送サービスを行なう。またデイケアの推進と患者の担当医の責任体制を整備する。

- 3) 病棟の機能分担化：軽度の認知症者やり八中心の病棟をつくり、ショートステイの受け入れ、さらに横浜市の認知症者緊急入院制度の導入をおこなう。
- 4) チーム医療の充実：医師・看護師・介護士・PSW・OT・薬剤師・事務員などからなるチーム医療を進める。それぞれが対等で家族もメンバーの一員とする。また、各病棟に家族会を発足させる。
- 5) 新しい医療・看護・介護法の導入：タクティール・ケアをはじめ、スウェーデンのシルビアホームの理念やセンター方式、回想法・散歩療法など。
- 6) 医療レベルの向上：優秀なスタッフを集め、学会や研修会への参加を推奨し、講演会や研究報告会・症例検討会を開催し、外の施設との交流を促進する。
- 7) 医療経営についての関心と配慮：認知症医療はきびしい方向で、職員が医療経済を勉強し改善に努める必要がある。また、後発品の導入、合理的な医療・介護品の導入を！
- 8) 地域との交流：地域の各機関・施設と連携し、また講演会などを通して病院を地域に開放する。
- 9) 職員を大事にする：もっとも大事な理念で、誇りを持って仕事ができる環境づくりを！
- 10) 将来的にはコンピューターの導入と外部評価機構への参加：時間をかけて準備していくことが必要で当面の目標とする。

以上、十項目は就任直後の所信で、現状をまだ把握していない段階での夢のようなところもあり、まだぬけている事もあると思うが、就任して1ヶ月もしない時期の話である。最初に気づいたことは結構大事なことが多く、マンネリ化しないうちに伝えたい。

：南泉病院に



阿久和鳳莊 納涼祭！

